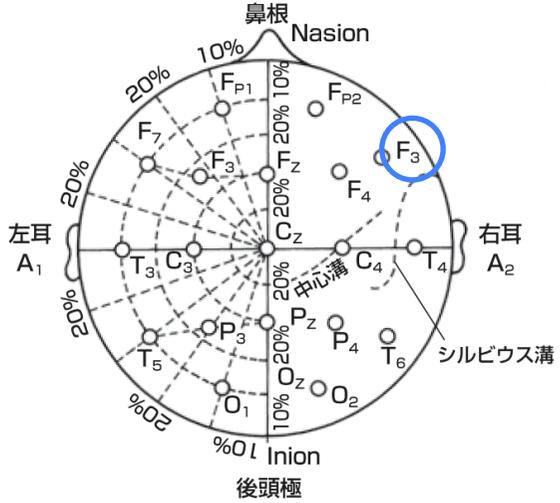


『臨床検査技師 イエロー・ノート 臨床編 2nd edition』（2013年3月10日 第2版第1刷）に誤りがありました。
ここに深くお詫びいたしまして、訂正申し上げます。

(2016年9月15日 メジカルビュー社編集部)

ページ	該当箇所	誤	正
p.485	図6, 左図		F ₈
p.557	3行目	$\lambda = f/c$	$\lambda = c/f$

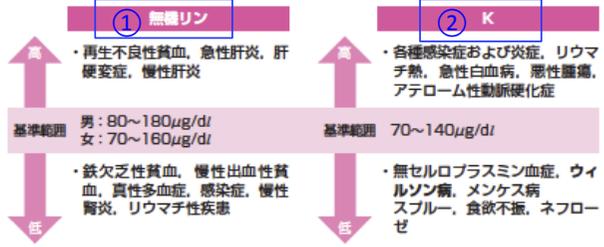
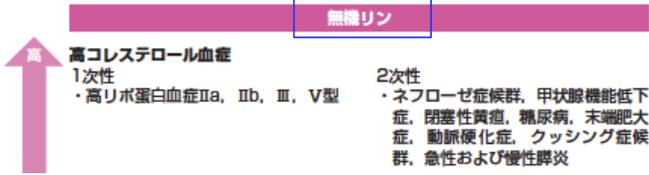
『臨床検査技師 イエロー・ノート 臨床編 2nd edition』 (2013年3月10日 第2版第1刷) に誤りがありました。
ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

(2014年4月7日更新 メジカルビュー社編集部)

ページ	該当箇所	誤	正
p. 4	One point Advice 1行目	閉塞性換気障害は、%肺活量(%VC)80%以上、1秒率(FEV1.0%)70% <u>以下</u> 、%VC80% <u>以下</u> 、1秒率FEV1.0%70% <u>以下</u> の場合、「混合性換気障害」とよび、進行した気腫型でみられ、気腫合併肺線維症とよばれる。	閉塞性換気障害は、%肺活量(%VC)80%以上、1秒率(FEV1.0%)70% <u>未滿</u> 、%VC80% <u>未滿</u> 、1秒率FEV1.0%70% <u>未滿</u> の場合、「混合性換気障害」とよび、進行した気腫型でみられ、気腫合併肺線維症とよばれる。
p. 5	One oint Advice	拘束性換気障害は、%肺活量(%VC)80% <u>以下</u> 、1秒率(FEV1.0%)70%以上。	拘束性換気障害は、%肺活量(%VC)80% <u>未滿</u> 、1秒率(FEV1.0%)70%以上。
p. 9	TAP&TAP 輸入細菌感染症	旅行者下痢症(毒素原性大腸菌、赤痢、コレラ)、腸チフス	旅行者下痢症(毒素原性大腸菌 <u>感染症</u> 、赤痢、コレラ)、腸チフス
p. 35	表1 固定液の成分・特徴・用途	(電顕用固定液についてはp. 67に記載)	(電顕用固定液についてはp. 66に記載)
p. 36	One point Advice 下から2行目	・重クロム酸カリ(黄色)の除去	・重クロム酸カリ(<u>赤</u> 黄色)の除去
p. 45	表4 各種結合組織染色と使用色素名 2列目	<u>レゾルシン</u> ・フクシン(赤)	<u>酸</u> フクシン(赤)
p. 46	各種結合組織染色の特徴 5行目	エラスチカ・ワンギーソン(EVG)染色はレゾルシン・フクシンを用いて弾性線維を選択的に黒色に、膠原線維を赤色に染め分ける染色法。	エラスチカ・ワンギーソン(EVG)染色はレゾルシン・フクシンを用いて弾性線維を選択的に黒色に、膠原線維を <u>ワンギーソン液(酸フクシンとピクリン酸よりなる染色液)</u> で赤色に染め分ける染色法。
p. 47	鍍銀液の特別注意点 6行目	鍍銀液を作成する際に使用する容器類、ドーゼなどはすべてガラス製を使用し、あらかじめ脱鉄(金属)操作が必要である。	鍍銀液を作成する際に使用する容器類、ドーゼなどはすべてガラス製を使用し、あらかじめ脱鉄(<u>脱</u> 金属)操作が必要である。
p. 62	チール・ネルゼン染色法 9行目	・結核菌、らい菌、(非 <u>定型</u> 抗酸菌) → 暗赤色	・結核菌、らい菌、(非 <u>結核</u> 抗酸菌) → 暗赤色

p. 114	血小板粘着能 7行目	● 関与 ： von Willebrand因子 (vWF) または血小板膜糖蛋白 (GPIb/IX/V) の異常。	● 低下 ： von Willebrand因子 (vWF) または血小板膜糖蛋白 (GPIb/IX/V) の異常。																																				
p. 136	表8 造血性腫瘍において融合遺伝子を形成する染色体転座	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病型</th> <th>染色体異常</th> <th>融合する2つの遺伝子*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CML, ALL</td> <td>t(9;22)(q34;q11)</td> <td><u>ABL</u>(9q34)-<u>BCR</u>(22q11)</td> </tr> <tr> <td>AML(M2)</td> <td>t(8;21)(q22;q22)</td> <td><u>MTG8</u>(8q22)-<u>AML1</u>(21q22)</td> </tr> <tr> <td>APL(M3)</td> <td>t(15;17)(q22;q21)</td> <td><u>PML</u>(15q22)-<u>RARA</u>(17q21)</td> </tr> <tr> <td>AML(M4 E0)</td> <td>inv(16)(p13q22)</td> <td><u>MYH11</u>(16p13)-<u>CBF-β</u>(16q22)</td> </tr> <tr> <td>AML(M5)</td> <td>t(9;11)(p22;q23)</td> <td><u>AF9</u>(9p22)-<u>MLL</u>(11q23)</td> </tr> </tbody> </table>	病型	染色体異常	融合する2つの遺伝子*	CML, ALL	t(9;22)(q34;q11)	<u>ABL</u> (9q34)- <u>BCR</u> (22q11)	AML(M2)	t(8;21)(q22;q22)	<u>MTG8</u> (8q22)- <u>AML1</u> (21q22)	APL(M3)	t(15;17)(q22;q21)	<u>PML</u> (15q22)- <u>RARA</u> (17q21)	AML(M4 E0)	inv(16)(p13q22)	<u>MYH11</u> (16p13)- <u>CBF-β</u> (16q22)	AML(M5)	t(9;11)(p22;q23)	<u>AF9</u> (9p22)- <u>MLL</u> (11q23)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病型</th> <th>染色体異常</th> <th>融合する2つの遺伝子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CML, ALL</td> <td>t(9;22)(q34;q11)</td> <td><u>ABL1</u>(9q34)-<u>BCR</u>(22q11)</td> </tr> <tr> <td>AML(M2)</td> <td>t(8;21)(q22;q22)</td> <td><u>RUNX1</u>(8q22)-<u>RUNX1T1</u>(21q22)</td> </tr> <tr> <td>APL(M3)</td> <td>t(15;17)(q22;q12)</td> <td><u>PML</u>(15q22)-<u>RARA</u>(17q21)</td> </tr> <tr> <td>AML(M4 E0)</td> <td>inv(16)(p13q22)</td> <td><u>MYH11</u>(16p13)-<u>CBFB</u>(16q22)</td> </tr> <tr> <td>AML(M5)</td> <td>t(9;11)(p22;q23)</td> <td><u>MLLT3</u>(9p22)-<u>MLL</u>(11q23)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※赤字部分：修正箇所</p>	病型	染色体異常	融合する2つの遺伝子	CML, ALL	t(9;22)(q34;q11)	<u>ABL1</u> (9q34)- <u>BCR</u> (22q11)	AML(M2)	t(8;21)(q22;q22)	<u>RUNX1</u> (8q22)- <u>RUNX1T1</u> (21q22)	APL(M3)	t(15;17)(q22;q12)	<u>PML</u> (15q22)- <u>RARA</u> (17q21)	AML(M4 E0)	inv(16)(p13q22)	<u>MYH11</u> (16p13)- <u>CBFB</u> (16q22)	AML(M5)	t(9;11)(p22;q23)	<u>MLLT3</u> (9p22)- <u>MLL</u> (11q23)
病型	染色体異常	融合する2つの遺伝子*																																					
CML, ALL	t(9;22)(q34;q11)	<u>ABL</u> (9q34)- <u>BCR</u> (22q11)																																					
AML(M2)	t(8;21)(q22;q22)	<u>MTG8</u> (8q22)- <u>AML1</u> (21q22)																																					
APL(M3)	t(15;17)(q22;q21)	<u>PML</u> (15q22)- <u>RARA</u> (17q21)																																					
AML(M4 E0)	inv(16)(p13q22)	<u>MYH11</u> (16p13)- <u>CBF-β</u> (16q22)																																					
AML(M5)	t(9;11)(p22;q23)	<u>AF9</u> (9p22)- <u>MLL</u> (11q23)																																					
病型	染色体異常	融合する2つの遺伝子																																					
CML, ALL	t(9;22)(q34;q11)	<u>ABL1</u> (9q34)- <u>BCR</u> (22q11)																																					
AML(M2)	t(8;21)(q22;q22)	<u>RUNX1</u> (8q22)- <u>RUNX1T1</u> (21q22)																																					
APL(M3)	t(15;17)(q22;q12)	<u>PML</u> (15q22)- <u>RARA</u> (17q21)																																					
AML(M4 E0)	inv(16)(p13q22)	<u>MYH11</u> (16p13)- <u>CBFB</u> (16q22)																																					
AML(M5)	t(9;11)(p22;q23)	<u>MLLT3</u> (9p22)- <u>MLL</u> (11q23)																																					
p. 137	表9 ALLとリンパ腫において癌遺伝子を異常発現させる染色体転座	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病型</th> <th>染色体異常</th> <th>異常発現する遺伝子**</th> <th>リンパ球機能遺伝子**</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BL*, B-ALL</td> <td>t(8;14)(q24;q32)</td> <td><u>MYC</u>(8q24)</td> <td><u>IGH</u>(14q32)</td> </tr> <tr> <td>BL, B-ALL</td> <td>t(2;8)(p12;q24)</td> <td><u>MYC</u>(8q24)</td> <td><u>IGK</u>(2p12)</td> </tr> <tr> <td>BL, B-ALL</td> <td>t(8;22)(q24;q11)</td> <td><u>MYC</u>(8q24)</td> <td><u>IGL</u>(22q11)</td> </tr> <tr> <td>濾胞性リンパ腫</td> <td>t(14;18)(q32;q21)</td> <td><u>BCL2</u>(18q21)</td> <td><u>IGH</u>(14q32)</td> </tr> <tr> <td>T-ALL, リンパ芽球性リンパ腫</td> <td>t(11;14)(p13;q11)</td> <td><u>ABTN2</u>(11p13)</td> <td><u>TCR-δ/α</u>(14q11)</td> </tr> </tbody> </table>	病型	染色体異常	異常発現する遺伝子**	リンパ球機能遺伝子**	BL*, B-ALL	t(8;14)(q24;q32)	<u>MYC</u> (8q24)	<u>IGH</u> (14q32)	BL, B-ALL	t(2;8)(p12;q24)	<u>MYC</u> (8q24)	<u>IGK</u> (2p12)	BL, B-ALL	t(8;22)(q24;q11)	<u>MYC</u> (8q24)	<u>IGL</u> (22q11)	濾胞性リンパ腫	t(14;18)(q32;q21)	<u>BCL2</u> (18q21)	<u>IGH</u> (14q32)	T-ALL, リンパ芽球性リンパ腫	t(11;14)(p13;q11)	<u>ABTN2</u> (11p13)	<u>TCR-δ/α</u> (14q11)	<u>LMO2</u>												
病型	染色体異常	異常発現する遺伝子**	リンパ球機能遺伝子**																																				
BL*, B-ALL	t(8;14)(q24;q32)	<u>MYC</u> (8q24)	<u>IGH</u> (14q32)																																				
BL, B-ALL	t(2;8)(p12;q24)	<u>MYC</u> (8q24)	<u>IGK</u> (2p12)																																				
BL, B-ALL	t(8;22)(q24;q11)	<u>MYC</u> (8q24)	<u>IGL</u> (22q11)																																				
濾胞性リンパ腫	t(14;18)(q32;q21)	<u>BCL2</u> (18q21)	<u>IGH</u> (14q32)																																				
T-ALL, リンパ芽球性リンパ腫	t(11;14)(p13;q11)	<u>ABTN2</u> (11p13)	<u>TCR-δ/α</u> (14q11)																																				
p. 188	表1 SI単位の基本単位 3列目	<table border="1"> <tr> <td>ケルビン</td> <td><u>k</u></td> </tr> </table>	ケルビン	<u>k</u>	<u>K</u>																																		
ケルビン	<u>k</u>																																						
p. 189	組立単位 上から6行目	… (オーム : Ω) , <u>電気</u> 容量…	… (オーム : Ω) , <u>静電</u> 容量…																																				
p. 192	容量分析用標準物質 上から2行目	三酸化ヒ素 (<u>As₂O₃</u>) , … (中略) …ヨウ素酸カリウム (KIO ₃) の <u>10</u> 品目がある。	三酸化ヒ素 (<u>As₂O₃</u>) , … (中略) …ヨウ素酸カリウム (KIO ₃) , <u>フタル酸水素カリウム (C₈H₅KO₄)</u> の <u>11</u> 品目がある。																																				
p. 199	モル吸光係数 下から2行目	例えば, NADHは…	例えば, NAD <u>(P)</u> Hの340nmのモル吸光係数は																																				

p. 199	表14 分光光度計および原子吸光光度計の測定装置		削除						
p. 200	表15 吸収光と余色の関係 12行目	<table border="1"> <thead> <tr> <th>吸収光の波長(nm)</th> <th>吸収光の色</th> <th>余色(透過光の色)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>750~</td> <td>赤外</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	吸収光の波長(nm)	吸収光の色	余色(透過光の色)	750~	赤外		吸収光の波長 (nm) : 750~800 吸収光の色 : 紫赤 余色 (透過光の色) : 緑
吸収光の波長(nm)	吸収光の色	余色(透過光の色)							
750~	赤外								
"	測光部 1行目	光電子増倍に…	光電子増倍管に…						
p. 203	蛍光光度計の構造と特徴 4, 9行目	ランプ (「 <u>輝線</u> スペクトル」), …が用いられる。 (中略) ●蛍光波長選択部では, 励起光の光路と…電流に変換する。	ランプ (「 <u>線</u> スペクトル」), …が用いられる。 (中略) ● <u>蛍光側</u> 波長選択部では, <u>蛍光</u> は励起光の光路と…電流に変換する。						
p. 210	表20 イオン選択電極の種類	固体膜(単結晶膜, 難溶性金属塩)電極 <table border="1"> <tr> <td> Cl^-(銀-塩化銀電極), CN^-, S^{2-}, I^-, Br^-, Cu^{2+}, <u>Ca^{2+}</u>, Pb^{2+}, Ag^+, <u>ScN^-</u> </td> </tr> </table>	Cl^- (銀-塩化銀電極), CN^- , S^{2-} , I^- , Br^- , Cu^{2+} , <u>Ca^{2+}</u> , Pb^{2+} , Ag^+ , <u>ScN^-</u>	<u>Cd^{2+}</u> <u>SCN^-</u>					
Cl^- (銀-塩化銀電極), CN^- , S^{2-} , I^- , Br^- , Cu^{2+} , <u>Ca^{2+}</u> , Pb^{2+} , Ag^+ , <u>ScN^-</u>									
p. 219	化学発光免疫法 1行目	●化学発光免疫測定法 (chemiluminescent immunoassay : CLIA) と化学発光酵素免疫法 (chemiluminescent enzyme immunoassay : CLEIA) がある。 <u>抗原に対して2種類の抗体を用いて挟み込むサンドイッチ法で測定する。</u>	●化学発光免疫測定法 (chemiluminescence immunoassay : CLIA) と化学発光酵素免疫法 (chemiluminescence enzyme immunoassay : CLEIA) がある。 <u>EIAと同様な反応形式で検出する。</u>						

p. 228	臨床的意義		①→血清鉄, ②→血清銅
p. 232	図3 糖尿病の臨床診断のフローチャート	<ul style="list-style-type: none"> ●血糖値 (空腹時$\geq 126\text{mg/dL}$, OGTT2時間$\geq 200\text{mg/dL}$, 随時$\geq 200\text{mg/dL}$のいずれか) ●HbA1c (JDS値) $\geq 6.1\%$ [HbA1c (国際標準値) $\geq 6.5\%$] 	<ul style="list-style-type: none"> ●血糖値 (空腹時$\geq 126\text{mg/dL}$, OGTT2時間$\geq 200\text{mg/dL}$, 随時$\geq 200\text{mg/dL}$のいずれか) ●HbA1c (JDS値) $\geq 6.1\%$ [HbA1c (NGSP値) $\geq 6.5\%$]
p. 237	補足 5行目	$\text{NAD} \xrightarrow{\text{CD}} \Delta^4\text{-コレステレン}$	コレステノン
"	臨床的意義		コレステロール
p. 239	血中遊離脂肪酸 1行目	オレイン酸 : 23%	オレイン酸 : 29%
p. 247	Lp (a) 1行目	●生理的意義 : LDLの一部を構成しているアポ蛋白 (a) が結合したものの。血栓の形成を促進させる動脈硬化症の危険因子。	●生理的意義 : LDLの一部を構成しているアポ蛋白B-100にアポ蛋白 (a) が結合したものの。血栓の形成を促進させる動脈硬化症の危険因子。
p. 249	補足 : ビウレット試薬	ヨウ化カリ : Cu^{2+} が Cu^{+} に還元されるのを防ぐため。	ヨウ化カリ : Cu^{2+} が Cu^{+} に還元されるのを防ぐため。

p. 253	表36 栄養障害評価のための指標	<table border="1"> <tr> <td>血清蛋白</td> <td>アルブミン トランスフェリン トランスサイレチン (プレアルブミン) レチノール結合蛋白</td> <td>(半減期) 17日 9日 48時間 12時間</td> </tr> <tr> <td>尿中窒素</td> <td>窒素バランス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>免疫能</td> <td>総リンパ球数 皮膚遅延型過敏反応</td> <td></td> </tr> </table>	血清蛋白	アルブミン トランスフェリン トランスサイレチン (プレアルブミン) レチノール結合蛋白	(半減期) 17日 9日 48時間 12時間	尿中窒素	窒素バランス		免疫能	総リンパ球数 皮膚遅延型過敏反応		7日
血清蛋白	アルブミン トランスフェリン トランスサイレチン (プレアルブミン) レチノール結合蛋白	(半減期) 17日 9日 48時間 12時間										
尿中窒素	窒素バランス											
免疫能	総リンパ球数 皮膚遅延型過敏反応											
p. 265	還元末端修飾オリゴ糖を基質にする方法	$4\text{NP}^{*21}\text{-C}_5 \xrightarrow{\alpha\text{-アミラーゼ}} \text{C}_7\text{-4NP} + \text{C}_7\text{-PNP} \xrightarrow{\alpha\text{-グルコシダーゼ}} 4\text{-NP} + 5\text{G}$ <p>(CNP)^{*20} (CNP) (CNP) (遊離した4-NPまたはCNPを405nmで測定)黄色</p>	4NP									
p. 267	測定法 4~8行目	<p>● p-ヒドロキシベンゾイルコリン法 (JSCC勧告法)</p> <p>p-ヒドロキシベンゾイルコリンを基質とする酵素法。</p> $\text{p-ヒドロキシベンゾイルコリン} + \text{H}_2\text{O} \xrightarrow{\text{ChE}} \text{コリン} + \text{p-ヒドロキシベンゾエイト}$ $\text{p-ヒドロキシベンゾエイト} + \text{NADPH} + \text{H}^+ + \text{O}_2 \xrightarrow{\text{p-HBOP}^{*20}} \text{3,4-ジヒドロキシベンゾエイト} + \text{NADP} + \text{H}_2\text{O}$ <p>(プロトカテキン酸) (340nmの吸光度の減少を測定)</p>	4									
p. 273	表42 タイトル	アイソザイムパターンと推定される由来細胞較	アイソザイムパターンと推定される由来細胞									
p. 274	測定法 6行目	$\text{26-ジクロロ-4-ニトロフェニルリン酸} \xrightarrow[\text{pH5.3}]{\text{AcP}} \text{H}_3\text{PO}_4 + \text{2-クロロ-4-ニトロフェノール (黄色)}$ <p>(400nmで測定)</p>	2クロロ									

p. 330	表18 便潜血反応の比較	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>免疫学的方法</th> <th>化学法(触媒法)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原理</td> <td>抗ヒトヘモグロビン抗体を用いた抗原抗体反応</td> <td>ヘモグロビンのペルオキシダーゼ様活性を利用</td> </tr> <tr> <td>感度</td> <td>化学法より高い</td> <td>フェノールフタレイン法>ロ-トリジン法>グアヤック法</td> </tr> <tr> <td>特異性</td> <td>高い</td> <td>低い</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td>下部消化管出血 大腸癌スクリーニング</td> <td>消化管出血</td> </tr> <tr> <td>影響物質</td> <td>なし</td> <td>偽陽性：鉄剤、ヨード剤、肉類、魚類、ホウレン草、人参、大根など 偽陰性：トイレ洗浄剤</td> </tr> <tr> <td>検体保存性</td> <td>生便のままでは失活 採便容器(緩衝液)に便をとり、冷蔵保存で2日程度</td> <td>生便のままなので失活激しい</td> </tr> </tbody> </table>		免疫学的方法	化学法(触媒法)	原理	抗ヒトヘモグロビン抗体を用いた抗原抗体反応	ヘモグロビンのペルオキシダーゼ様活性を利用	感度	化学法より高い	フェノールフタレイン法>ロ-トリジン法>グアヤック法	特異性	高い	低い	目的	下部消化管出血 大腸癌スクリーニング	消化管出血	影響物質	なし	偽陽性：鉄剤、ヨード剤、肉類、魚類、ホウレン草、人参、大根など 偽陰性：トイレ洗浄剤	検体保存性	生便のままでは失活 採便容器(緩衝液)に便をとり、冷蔵保存で2日程度	生便のままなので失活激しい	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>免疫学的方法</th> <th>化学法(触媒法)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原理</td> <td>抗ヒトヘモグロビン抗体を用いた抗原抗体反応</td> <td>ヘモグロビンのペルオキシダーゼ様活性を利用</td> </tr> <tr> <td>感度</td> <td>化学法より高い</td> <td>フェノールフタレイン法>ロ-トリジン法>グアヤック法</td> </tr> <tr> <td>特異性</td> <td>高い</td> <td>低い</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td>下部消化管出血 大腸癌スクリーニング</td> <td>消化管出血</td> </tr> <tr> <td>影響物質</td> <td>偽陰性：トイレ洗浄剤</td> <td>偽陽性：鉄剤、ヨード剤、肉類、魚類、ホウレン草、人参、大根など</td> </tr> <tr> <td>検体保存性</td> <td>生便のままでは失活 採便容器(緩衝液)に便をとり、冷蔵保存で2日程度</td> <td>生便のままなので失活激しい</td> </tr> </tbody> </table>		免疫学的方法	化学法(触媒法)	原理	抗ヒトヘモグロビン抗体を用いた抗原抗体反応	ヘモグロビンのペルオキシダーゼ様活性を利用	感度	化学法より高い	フェノールフタレイン法>ロ-トリジン法>グアヤック法	特異性	高い	低い	目的	下部消化管出血 大腸癌スクリーニング	消化管出血	影響物質	偽陰性：トイレ洗浄剤	偽陽性：鉄剤、ヨード剤、肉類、魚類、ホウレン草、人参、大根など	検体保存性	生便のままでは失活 採便容器(緩衝液)に便をとり、冷蔵保存で2日程度	生便のままなので失活激しい
	免疫学的方法	化学法(触媒法)																																											
原理	抗ヒトヘモグロビン抗体を用いた抗原抗体反応	ヘモグロビンのペルオキシダーゼ様活性を利用																																											
感度	化学法より高い	フェノールフタレイン法>ロ-トリジン法>グアヤック法																																											
特異性	高い	低い																																											
目的	下部消化管出血 大腸癌スクリーニング	消化管出血																																											
影響物質	なし	偽陽性：鉄剤、ヨード剤、肉類、魚類、ホウレン草、人参、大根など 偽陰性：トイレ洗浄剤																																											
検体保存性	生便のままでは失活 採便容器(緩衝液)に便をとり、冷蔵保存で2日程度	生便のままなので失活激しい																																											
	免疫学的方法	化学法(触媒法)																																											
原理	抗ヒトヘモグロビン抗体を用いた抗原抗体反応	ヘモグロビンのペルオキシダーゼ様活性を利用																																											
感度	化学法より高い	フェノールフタレイン法>ロ-トリジン法>グアヤック法																																											
特異性	高い	低い																																											
目的	下部消化管出血 大腸癌スクリーニング	消化管出血																																											
影響物質	偽陰性：トイレ洗浄剤	偽陽性：鉄剤、ヨード剤、肉類、魚類、ホウレン草、人参、大根など																																											
検体保存性	生便のままでは失活 採便容器(緩衝液)に便をとり、冷蔵保存で2日程度	生便のままなので失活激しい																																											
p. 358	TAP&TAP 下から5行目	<i>Pneumocystis jirovecii</i>	<i>Pneumocystis jirovecii</i>																																										
p. 370	下から8行目	■フィッシュバーグ濃縮試験	削除																																										
p. 387	■特殊な真菌, One point Advice	<i>Pneumocystis jirovecii</i>	<i>Pneumocystis jirovecii</i>																																										
p. 396	図8 真菌	<i>Pneumocystis jirovecii</i>	<i>Pneumocystis jirovecii</i>																																										
p. 405	抗原と特異性 下から3行目	●カルジオリイピン	●カルジオリピン																																										
p. 408	表2 染色パターンと推定抗体および疾患との関係	<table border="1"> <thead> <tr> <th>染色パターン</th> <th>抗体</th> <th>疾患</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>均質(homogeneous)型</td> <td>抗ヒストン抗体、抗DNP抗体</td> <td>SLE、薬剤誘発性ループス</td> </tr> <tr> <td>辺縁(peripheral)型</td> <td>抗DNA抗体</td> <td>SLE</td> </tr> <tr> <td>斑紋(speckled)型</td> <td>抗DNA抗体</td> <td>混合性結合組織病、強皮症</td> </tr> <tr> <td>核小体(nucleolar)型</td> <td>抗核小体抗体</td> <td>強皮症</td> </tr> <tr> <td>セントロメア(discrete speckled)型</td> <td>抗セントロメア抗体</td> <td>CREST症候群*2</td> </tr> </tbody> </table>	染色パターン	抗体	疾患	均質(homogeneous)型	抗ヒストン抗体、抗DNP抗体	SLE、薬剤誘発性ループス	辺縁(peripheral)型	抗DNA抗体	SLE	斑紋(speckled)型	抗DNA抗体	混合性結合組織病、強皮症	核小体(nucleolar)型	抗核小体抗体	強皮症	セントロメア(discrete speckled)型	抗セントロメア抗体	CREST症候群*2	抗ENA抗体																								
染色パターン	抗体	疾患																																											
均質(homogeneous)型	抗ヒストン抗体、抗DNP抗体	SLE、薬剤誘発性ループス																																											
辺縁(peripheral)型	抗DNA抗体	SLE																																											
斑紋(speckled)型	抗DNA抗体	混合性結合組織病、強皮症																																											
核小体(nucleolar)型	抗核小体抗体	強皮症																																											
セントロメア(discrete speckled)型	抗セントロメア抗体	CREST症候群*2																																											
p. 409	用語アラカルト *4 ADCC	antibody-dependent <u>cell</u> cytotoxicity	antibody-dependent <u>cellular</u> cytotoxicity																																										
p. 417	表6 代表的な検査法と疾患	慢性関節リウマチ	関節リウマチ																																										

p. 458	TAP&TAP 1行目	●心電計周波数特性 ⇒ 0.5~100Hz 前後	●心電計周波数特性 ⇒ 0.05~150Hz 前後
"	心電計 下から2行目	心電図信号を有効に取り出すために、電極と皮膚間の接触抵抗を小さくし、分極電圧* ⁹ を下げ、入力インピーダンスを2.5MΩ相当以上にする (JIS*¹⁰ T1202)。	心電図信号を有効に取り出すために、電極と皮膚間の接触抵抗を小さくし、分極電圧* ⁹ を下げ、入力インピーダンスを2.5MΩ相当以上にする (IEC*¹⁰ 60601-2-25)。
"	用語アラカルト *10	JIS 日本工業規格のこと。「Japanese Industrial Standard」の略。1998年に国際規格 (International Electro-technical Commission: IEC) との整合性が図られた。	IEC International Electro-technical Commission
p. 459	上から3行目	●2入力間の電位差を増幅する差動増幅器によって同相の交流障害を軽減する。 ●10Hzのレスポンス100%に対し、75Hzで71~105%、0.5~60Hzで90~105%の範囲のレスポンスが必要である (JIS T1202)。 ●B型*11, BF型*11は体表面の誘導に限って用いる。CF型*11は体内の誘導に用いることができる。被検者漏れ電流許容値はB型, BF型で0.1mA (マクロショック*12対策), CF型で0.01mA (マイクロショック*13対策) である (JIST0601-1)。	●2入力間の電位差を増幅する差動増幅器によって同相の交流障害を軽減する。 正弦波特性: 0.05~150Hz。 ● 低周波特性 (時定数): 3.2秒以上。 ●B型*11, BF型*11は体表面の誘導に限って用いる。CF型*11は体内の誘導に用いることができる。被検者漏れ電流許容値はB型, BF型で0.1mA (マクロショック*12対策), CF型で0.01mA (マイクロショック*13対策) である。
p. 519	図78 運動神経伝導検査 (正中神経での例) : 測定方法		+と-の位置入れ替え

p. 523	図83 脱髄の運動神経伝導検査所見	終末潜時 : 5.80msec (<7.5) 伝導速度 : 36.2m/sec (>45.0) 持続 <u>近位</u> : 12.4msec (>7.0) <u>遠位</u> : 22.7msec (>8.0) () は正常値 <u>遠位</u> 刺激の波形に波形の変形, 持続の延長が認められる (<u>近位</u> 刺激でも同様の軽度の所見が認められる)	終末潜時 : 5.80msec (<7.5) 伝導速度 : 36.2m/sec (>45.0) 持続 <u>遠位</u> : 12.4msec (>7.0) <u>近位</u> : 22.7msec (>8.0) () は正常値 <u>近位</u> 刺激の波形に波形の変形, 持続の延長が認められる (<u>遠位</u> 刺激でも同様の軽度の所見が認められる)				
p. 528	図89タイトル	F磁気刺激による誘発筋電図—皮質刺激, 頸椎C7刺激, <u>正中神経</u> 導出 (健常者)	F磁気刺激による誘発筋電図—皮質刺激, 頸椎C7刺激, <u>短母指外転筋</u> 導出 (健常者)				
p. 532	用語アラカルト 下から2行目	(<u>D_L</u>) = A・D/Tとすると…	(<u>D_L</u>) = A・D/Tとすると…				
p. 558	②Bモード 1行目	反射 <u>進行</u> の強さを輝点の…	反射 <u>信号</u> の強さを輝点の…				
p. 559	パルス反射法の基本原理 5行目	●図2で反射体Aまでの距離が20cmとすると, 音波がAまで届く時間は,	●図2で反射体までの距離が20cmとすると, 音波がAまで届く時間は,				
"	" 11行目	<u>1s</u> / ≒ 3,800, 約3,800回	<u>1秒/260μs</u> ≒ 3,800, 約3,800回				
p. 560	電子走査方式 下から1行目	・種類としては, ①リニア電子走査型, ②コンベックス電子走査型, ③セクタ電子走査型, ④ <u>コンケーブ型</u> , ⑤ <u>ラジアル型</u> などがある (図3)。	・種類としては, ①リニア電子走査型, ②コンベックス電子走査型, ③セクタ電子走査型などがある (図3)。				
p. 579	表3 OTC検査の項目	<table border="1"> <tr> <td>糖, 蛋白検査薬</td> <td>試験紙法による糖, 蛋白検査</td> </tr> <tr> <td>妊娠検査薬</td> <td>尿妊娠検査(尿hCG検査)</td> </tr> </table>	糖, 蛋白検査薬	試験紙法による糖, 蛋白検査	妊娠検査薬	尿妊娠検査(尿hCG検査)	尿糖, 尿蛋白検査
糖, 蛋白検査薬	試験紙法による糖, 蛋白検査						
妊娠検査薬	尿妊娠検査(尿hCG検査)						

p. 586	採血に際しての注意事項 4行目	・ 早朝空腹時採血が一般的である。諸条件により検査値が変動する (p. 225参照)。	・ 早朝空腹時採血が一般的である。諸条件により検査値が変動する (p. 591参照)。			
p. 596	表1 主な検査項目の許容誤差限界 (CV) 3列目	<table border="1"> <tr> <td>クロール</td> <td>1.1 0.9</td> <td>2.2(90mEq/dl) 1.8(110mEq/l)</td> </tr> </table>	クロール	1.1 0.9	2.2(90mEq/dl) 1.8(110mEq/l)	!
クロール	1.1 0.9	2.2(90mEq/dl) 1.8(110mEq/l)				
p. 615	相関係数	$r = \pm \frac{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{S_x S_y}$	削除			
p. 617	③確率紙法 3行目	データを適当な幅に区分して、各区分の値をx軸にとる。各区分の度数から累積度数百分率 (y軸) を求め、確率紙に記入し、直線を引く。2.5%点と97.5%点に相当するy軸の目盛りを読み、それぞれ <u>上限値</u> 、 <u>下限値</u> とする (図8)。	データを適当な幅に区分して、各区分の値をx軸にとる。各区分の度数から累積度数百分率 (y軸) を求め、確率紙に記入し、直線を引く。2.5%点と97.5%点に相当するy軸の目盛りを読み、それぞれ <u>下限値</u> 、 <u>上限値</u> とする (図8)。			
p. 664	図14 水素電極		H ₂ ガス			